

うらおそい歴史新聞



第22号

前田高地に造られた「カンパン壕」

浦添城跡のある丘は沖縄戦当時、前田高地と呼ばれ「ありったけの地獄を一つにまとめた」といわれるほど激しい戦闘が行われた場所です。日米の将兵のみならず、住民も犠牲になった前田高地には「カンパン壕」や「缶詰壕」と呼ばれた壕が残されています。今回はその一つである「カンパン壕」をご紹介します。

【カンパン壕】

第62師団独立混成第63旅団が1944年に築造した壕です。壕はコの字型の形状をしています。

1945年4月下旬頃から当壕周辺での戦闘が激しくなるにつれ、配備されていた第63旅団の戦力が著しく低下、沖縄本島南部に展開していた第24師団が戦力補給のため前田高地に配備替えとなりました。これに伴い、第62師団も部隊の再配備を行い、当壕群へは独立歩兵第11大隊と独立歩兵第12大隊が配備され、乾パン壕等に潜むことになったといわれています。

5月5日「歩ける者は後方に転進、連隊本部に合流せよ」との命令で各部隊撤退するも第24師団歩兵第32連

隊歩兵第2大隊の一部が脱出できず前田高地に引き返しこの兵隊の手記から、この壕の奥には、乾パンの入ったブリキ缶を木箱で梱包した箱が、天井に届く位びっしり積み上げられ、負傷兵はその木箱の上で寝起きしていたといわれています。

現地の入り口には解説を記した看板が設置されていますので、興味のある方はぜひ足を運んでみてください。ただし、現在、この壕は浸水が激しくまた落盤等の恐れもあるため壕内に入ることはできません。また、すぐ近くには「缶詰壕」と呼ばれた壕もありますので、そちらもあわせてご覧下さい。

※乾パンとは、保存、携帯の目的で固く焼き締めたビスケットの一種です。日本軍は乾麺類（かんめんぼう）とも呼んでいました。



カンパン壕

前田高地のカンパン壕

壕の入り口までは、浦添城跡の南側にある浦添大公園南エントランス管理事務所の奥から、木製デッキの遊歩道が整備されています。

「浦添グスク・浦添ようどれ出土の戦争遺物展」実施中!

昭和20（1945）年の沖縄戦の最中、浦添グスクと浦添ようどれを含む前田高地と呼ばれた丘には、日本軍の陣地が置かれました。前田高地では激戦が繰り返され、多くの人命が失われました。さらに浦添グスクと浦添ようどれも大部分が破壊されました。

戦争と平和について考えることの多いこの時期、慰霊の日（6月23日）をはさんで浦添グスクと浦添ようどれの発掘調査で出土した戦争遺物を展示します。あわせてパネル展示「戦災を受けた史跡・文化財」も行います。ぜひご来館ください。

場所は浦添グスク・ようどれ館です。会期は8月3日まで開催しています。なお、観覧には浦添グスク・ようどれ館の入館料がかかります。



浦添グスク・ようどれ館での展示風景

展示コーナーでは、砲弾片を実際にさわることができる展示もあります。この機会にぜひお誘い合わせの上、ご来館ください。

浦添グスク・ようどれ館

【開館時間】
午前9時～午後5時

【入館料】

大人（高校生以上） 1000円
小人（小中学生） 500円

※市内小・中学生は無料

【休館日】月曜日・年末年始

【住所】〒901-2103

沖縄県浦添市仲間2-53-1

【電話】098-874-9345

【アクセス】

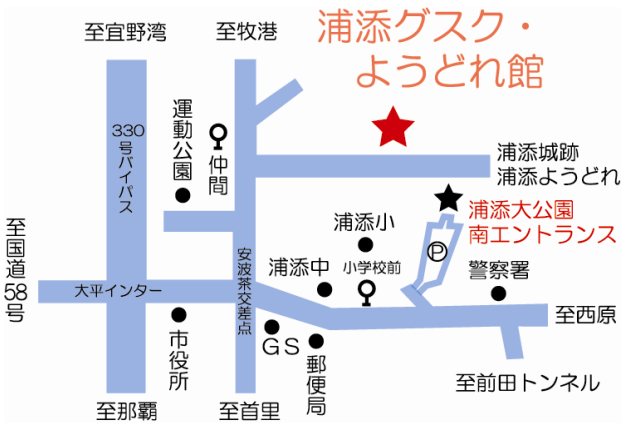
琉球バス交通 牧港線（55番）

仲間バス停から徒歩5分

※浦添グスク・ようどれを中心に浦添の史跡・文化財の案内を致します（有料）。時間・コースも相談できます。お気軽にお問い合わせ下さい。

※浦添大公園の南エントランスにグスクや市内文化財を紹介する展示コーナーもありますので、あわせてご覧ください（ガイドの解説あり）。

※浦添大公園の南エントランスにグスクや市内文化財を紹介する展示コーナーもありますので、あわせてご覧ください（ガイドの解説あり）。



※仲間バス停から徒歩5分